

タバココナジラミバイオタイプQの府内の分布について

平成17年12月に発生したトマト黄化葉巻病は、タバココナジラミ類により媒介されるウイルス病です。

タバココナジラミ類は、世界中に多くのバイオタイプ(形態的な区別が難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統)が存在します。国内では在来系統(バイオタイプJpL)と侵入害虫のバイオタイプB(シルバーリーフコナジラミ)及びバイオタイプQが確認されています。

特に、ここ数年、各都府県で発生が確認されたバイオタイプQは、薬剤感受性が極めて低いことと、登録薬剤の少ないトウガラシ類等でも発生していることから大きな被害をもたらしています。

本害虫は、総合的な防除対策が必要です。初発生に注意し、対策を駆使し、被害の拡大を抑制しましょう。

昨年6月と10月に一斉調査を行い、独立行政法人野菜茶業研究所にタバココナジラミ類のバイオタイプの同定を依頼していたところ、綾部市以南の9市3町でバイオタイプQの発生を確認しました(図1と表2)。

また、バイオタイプQの寄生が確認された植物は、表1のとおり9科16種となりました。



図1 バイオタイプQの府内での分布

表1 府内でバイオタイプQの寄生が確認された植物

科名等	種名
ナス科	トマト、ナス、トウガラシ
ウリ科	キュウリ、スイカ、マクワウリ、シマウリ
アオイ科	オクラ
アブラナ科	コマツナ
ヒルガオ科	サツマイモ
マメ科	ダイズ
キク科	アスター
トウダイグサ科	ポインセチア
ナス科雑草	イヌホウズキ
シソ科雑草	ホトケノザ
キク科雑草	ヨメナ

表2 府内での分布を確認した市町村

京都市、向日市、長岡京市、久御山町、宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、精華町、和束町、亀岡市、綾部市